

令和4年度 SSTA福島支部 秋季研修会 実施報告

【実施日時・場所】令和4年11月19日（土）13:00～17:00 オンライン開催

【参加人数】30名（小学校：17名 中学校：3名 指導主事：3名 大学：2名 学生：4名 民間：1名）【県外8名】

【研修のねらい】

- 日々の授業実践における一人一台学習用端末の活用事例や活用時の悩みを、参加者同士で話し合うことを通して、得られたアイデアや知見を今後の授業実践に生かすことができる。
- 一人一台学習用端末の活用事例や全国学力・学習状況調査のCBT化の動きについての講演を聞くことを通して、教育に関する最新情報を知り、それぞれの立場でこれからの見通しをもつことができる。



今回も、福島県内だけでなく、県外の先生方や学生の皆様にもご参加いただきました。また、教育支援アプリを開発している企業の方にも参加していただき、様々な立場からICT活用の未来を考えたいアツい方々の研修会になりました！

【研修の様子】

- グループ協議「GIGAスクール構想時代に、理科教育で育みたい子どもの姿とは」

研修者が5つのグループに分かれ、上記のテーマの下、それぞれが普段目の前にしている子どもの姿を基に、わたしたちが理科を通して育みたい子どもの姿について話し合いました。いくつかのグループでの研修者の発言を取り上げてみます。

「タブレットも活用していきたいけれど、やっぱり自然事象にじっくり関わる子どもを育てたいね」
「『先生、本物が見たいです！』とか言う子どもに、わたしは惹かれるんです」
「学習用端末を使うと、科学的な部分がものすごく充実しそうですね。特に再現性とか！」

研修者の方々は初めに、学習用端末の活用事例を互いに交流していましたが、だんだんと理科の授業の本質的な部分について語り合っていました。やはり理科は、自然の事物・現象とじっくりかわり、それを科学的に解決していくことが何よりも大切で、そのツールとしてICT機器があるのだと再確認することができました。参加した研修者の方々からは、次のような感想をいただきました。

参加者の感想(一部抜粋)

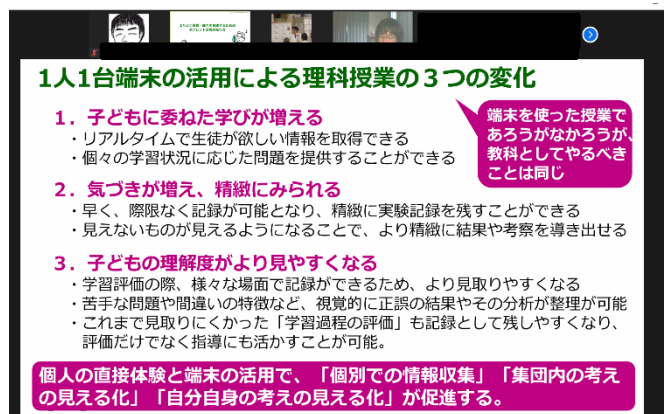
- ・ GIGA云々よりも、やはり大事なのは子どもの資質・能力の何を育むのか。理科が面白いって思ってもらえるように何をやるのかをまずは第一として、そこにこれから子どもたちの生きていく力として GIGAは何が担えるのかを考えることが大切のように感じました。(小学校教員)
- ・ 普段話す機会がない方と様々な情報をやりとりすることにより、大変勉強になりました。また、違うグループの皆さんのお話から、一人ひとりがイメージするタブレット端末の捉え方が実に多様であり、驚きました。(中学校教員)
- ・ ICTを使う際、目的意識が大切である。評価に関して「適切な記録」「わかりやすい記録」の仕方にICTが関連することで見取りの難しさを感じていることが共有された。表現が工夫された記録と考察につながる適切な記録の評価が混ざらないように今後検討したい。(小学校教員)



様々な県や立場の方々と、一つのテーマの下で話し合うことで、多くの学びを得ることがうかがえます。これからの授業実践につなげましょう。

○ 講演（國學院大學教授 寺本 貴啓 先生）

研修会の後半には、寺本先生にお話していただきました。歯切れよく、わたしたちに問いかけるようにお話をされる寺本先生のお話から、多くのことを考えるきっかけをいただきました。寺本先生のお話の概要は以下の通りです。



1人1台端末の活用による理科授業の3つの変化

- 1. 子どもに委ねた学びが増える**
 - リアルタイムで生徒が欲しい情報を取得できる
 - 個々の学習状況に応じた問題を提供することができる
- 2. 気づきが増え、精緻にみられる**
 - 早く、際限なく記録が可能となり、精緻に実験記録を残すことができる
 - 見えないものが見えるようになることで、より精緻に結果や考察を導き出せる
- 3. 子どもの理解度がより見やすくなる**
 - 学習評価の際、様々な場面で記録ができるため、より見取りやすくなる
 - 苦手な問題や間違いの特徴など、視覚的に正誤の結果やその分析が整理が可能
 - これまで見取りにくかった「学習過程の評価」も記録として残しやすくなり、評価だけでなく指導にも活かすことが可能

個人の直接体験と端末の活用で、「個別での情報収集」「集団内の考えの見える化」「自分自身の考えの見える化」が促進する。

- ICT 機器を使う際は、「どんな学習場面で、どのように使うことで、子どもにどんなことをさせたいか」の3点セットで活用方法を考えること。
- ICT 機器（即時の情報の共有や蓄積など）とノート（思考過程を残す）を使い分けること。
- 教師は ICT 機器を、子どもの評価に積極的に活用していくべきであること。
- 学習用端末と体験とを往還させることで、子どもの学びが充実すること。
- CBT の普及により、新しい能力が測定できるとともに、子ども一人一人に応じた学力調査が可能になること。

参加者の感想（一部抜粋）

- 心にぐさっとささるお言葉をいただきました。GIGA と言うよりも、やはりちゃんと子どものことを見ているのかというところに、自分は考えさせられるところがたくさんあったように思います。子どもたちがどこまで出来るようになっていくのか。そのために自分がどのような手立てをしようとしているのか。きちんと省察することが必要なのだと痛感しました。（小学校教員）
- 最先端の知見を得ることができました。ICT をどう用いることが生徒の力を高めるのか、またどのような授業を展開することが望ましいのか、示唆を得ることができました。（中学校教員）
- タブレット端末を活用する上での教師の構えが再考できとても参考になりました。（指導主事）



ICT 機器の活用をしていく上でも、やはり子どもの見取りは欠かせないですね。ICT 機器を使うことばかり考えがちですが、授業で本当に大切にすべきことを改めて考えさせられました。

○ リフレクション「講演を受けて、今後の取組みで意識したいこと」

研修の最後に、本研修会での学びを一人一人が語る時間を設定しました。「ICT 機器の活用に対する考え方が大きく変わった」「何のために、ICT を使うのかをよく考えて使っていきたい」「教育行政を担当する者として、先生方や子どもたちが使いやすい環境整備に力を入れていきたい」など、各立場で、これからの取組みの見通しを聞くことができ、非常に有意義な時間となりました。研修会の初めより、やってみたいことや考えてみたいことが増えた研修者のみなさんが、その後どのような授業実践や取り組みをしているか、また SSTA 福島支部研修会で共有できることを楽しみにしています！



寺本先生の話を聞いて

端末と授業の往還	メタ文字でいろいろ	どの場面でどのように使うのか	目的
よくある授業	タブレットの活用方法	授業でどう使うのか	端末はペダグジーの先生は活用がある
共有したいポイント	共有したいポイント	共有したいポイント	共有したいポイント
もっと使い道がある	共有したいポイント	共有したいポイント	共有したいポイント